

**出穂はほぼ平年並の予想です。
穂肥は遅れないよう適期に適量を！**

1 6月30日現在の生育診断圃の生育状況

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	残存アミノ酸 態窒素 (mg/100g乾土)	出穂期
はえぬき 酒田市荻島 5/10移植	本年	56.1	674	10.2	40.1	3.6	
	前年	51.4	614	10.0	44.0	2.3	7/30
	平年	49.9	692	9.6	41.7	1.5	8/1
	平年比	112	97	+0.6	-1.6	+2.1	
つや姫 酒田市漆曾根 5/11移植	本年	55.0	554	9.7	41.5	1.3	
	前年	49.9	476	8.6	44.5	2.5	8/9
	平年	48.8	504	9.3	43.5	1.5	8/9
	平年比	113	110	+0.4	-2.0	-0.2	
雪若丸 酒田市前川 5/9移植	本年	47.5	827	9.7	45.5	1.7	
	前年	45.5	675	9.7	52.2	2.9	8/2
	平年	44.0	744	9.8	46.4	-	8/3
	平年比	108	111	-0.1	-0.9	-	

6月は高温となり、生育量が十分に確保された圃場が多くなっています。平年に比べ草丈は長く、茎数は多い状況です。葉色は最も濃い時期を越え、ゆるやかに低下して来ています。

水田農業研究所の6月30日の調査では、「はえぬき」「雪若丸」「ひとめぼれ」で出穂が平年並～1日早いと予想されています。引き続き作溝・中干しを徹底し、適期に穂肥のできる稲姿にしましょう。

2 穂肥は適期に適量を【穂肥の目安】

品種	本年の 予想出穂期	葉色		施肥窒素量(N成分 kg/10a)		
		SPAD	葉色板	出穂30日前	出穂25日前	出穂20日前
はえぬき	8/3頃	35以下	4.5以下	1.5~2.0	—	(1.0~1.5)
		36~39.9	4.6~4.9	—	1.5~2.0	—
		40以上	5.0以上		1.0~1.5	
つや姫	8/9頃	39以下	4.9未満	1.5(有機N入り)	—	—
雪若丸	8/3頃	40~44	5.0~5.4	—	1.5	—
ひとめぼれ	8/2頃	33~37	4.3~4.7	—		1.0~1.5

過剰な施肥は籾数過剰、登熟不良を招くリスクがあります。葉色が濃い圃場では穂肥の時期は遅らせず、減肥対応または無施用としましょう。

ケイ酸資材の積極的な施用(KSK28、ケイ酸加里プレミア34等)によって登熟向上を目指しましょう。

3 中干しは穂肥前まで継続しましょう！

管内では6月20日頃から作溝・中干しが開始されましたが、ここ数日のまとまった降雨により、思うように乾いていない圃場が多くなっています。場合によっては暗渠を抜くなどして排水性を高め、中干しを穂肥前まで継続して生育調節に努めましょう。

地力：低～並 生育量：並	7～10日間を目安に 小ヒビが入る程度
地力：高 生育量：過多 葉色：極端に濃い	11～15日間を目安に やや強めの中干し (強すぎて上根が切れてしまわないよう注意)



小ヒビ



小ヒビから2日後

生育が小さい圃場や砂質で乾きやすい土壌の場合、この程度で作溝に水を入水します。

生育が大きい場合、この程度で作溝に水を回して、その後しばらく中干しを継続します。

しっかり中干しを効かせることで、上根の増加、根の活力向上、受光態勢の向上、地耐力の強化が図られ、高温やフェーンなどの気象変動に耐えられる強い稲体となり、登熟向上につながります。

中干し終了後、幼穂形成期以降は稲体の水分要求量が高まるため、出穂するまで間断かんがいを継続しましょう。今後の水管理を効果的に行うため、作溝がきれいに切れているか確認し、不十分な場合はすぐに手直しを行いましょう。

4 病虫害防除

病虫害防除所の発生予察情報では、斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」と予想されています。雑草での増殖抑制のため、畦畔・農道等の継続的な雑草対策を徹底しましょう。

一斉草刈りデーは 7月22日(土)～24(月)です！



中干しを継続し、穂肥のできる稲姿に仕上げましょう！

- 穂肥時期は、つや姫は有機質入り肥料で出穂の30日前、雪若丸は出穂の25日前です。遅れずに穂肥ができるように準備しましょう。
- 葉色の濃いつや姫には、適期適量の穂肥施用ができません。茎数が多い・葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを行いましょう。
- 生育診断の時期は、つや姫が7月10日、雪若丸が6月30日です。生育を確認しましょう。

農作業事故に注意！

作業機械、自身の体調を確認！

熱中症に注意して、無理はせず、水分・休憩をしっかりととりましょう！

